戦時下の社会　―出征を祝う人々―

1937(昭和 12)年に日中戦争が始まると、軍に徴兵されて中国へと出征する成人男性が増加し、地域社会が変化していきました。当時、出征は名誉なこととされ、日中戦争開始当初は地域の人々によって盛大に送り出されました。海南市孟子(もうこ)にあった榎家(えのきけ)文書に含まれている出征に関する資料から、戦時下の社会のようすについて見ていきます。

1　資料

【資料１】出征幟

＊資料のデジタル画像を見る

【資料２】寄せ書き

＊資料のデジタル画像を見る

【資料３】千人力

＊資料のデジタル画像を見る

2　解説

（1）日中戦争

1920 年代の日本は相次ぐ不景気に見舞われ、国民の多くはこの不景気を打開できなかった政党政治や、政党への献金などを行って影響力を強める財閥への不信感を募らせ、軍部がこの局面を打開してくれると期待し、軍部の政治への影響力が高まっていきました。軍部の主導により日本は、1928(昭和 3)年の山東出兵、1931(昭和 6)年の満洲事変等を引き起こし中国への干渉を強めていました。1937(昭和 12)年、北京郊外の盧溝橋で日本軍と中国軍が軍事衝突し、日中戦争が始まりました。

日中戦争が長期化すると、1938(昭和 13)年に国家総動員法、1939(昭和 14)年に国民徴用令が制定され、政府が労働力や物資を強制的に徴用できるようになりました。また、マスメディアの多くは日中戦争を積極的に支持し、軍国主義の風潮が強まりました。一部には反戦を唱える人々もいましたが、政府によって厳しい弾圧を受けました。こうして、軍事・経済・政治・国民心理に至るまで戦争遂行のために動員される総力戦体制が整えられていきました。

（2）日中戦争開始当初の和歌山県

日中戦争開始当初、中国の主要都市が占領されるたびに、和歌山県・和歌山市・商工会議所の主催で祝賀会が行われ、戦争を積極的に支持する風潮が社会全体として生み出されました。一方、戦場となった中国では日本軍との戦闘により、一般住民を含む多くの犠牲者を生みました。

また、国家総動員法制定後、総力戦体制による戦争の遂行のため、各地域では市町村の補助的な行政組織として、農村には部落会、都市には町内会、その下部組織として隣保班が制度化され、国民生活の相互監視、規制が強められました。和歌山県内でも、1940(昭和 15)年までに 2,573 の部落会・町内会、17,148 の隣保班が設置されました。

出征のときのようす
（出典：個人蔵）

（3）本資料について

本資料は、榎家[1]文書のうち出征に関する資料です。日中戦争開始後、軍に召集されて出征する成人男性が増加しました。出征は名誉なこととされ、地域をあげて盛大に祝いました。

資料 1 は、右上の写真のように出征時に掲げられた幟です。ここには、旭日旗を模した絵柄、「祝出征」、出征する「榎學」の氏名や勤務先である「鐘紡東京工場」の名が記されています。榎學氏は、20 代のときに徴兵によって北京周辺に従軍しました。その後約 2 年で除隊、職場に復帰し、結婚して中村姓となり、終戦を迎えました。

資料 2 は、右上の写真のように出征時に掲げられたとみられる寄書きです。榎學氏の出身校である米沢高等工業学校（現山形大学工学部）に関係する人々が作ったと考えられます。中央に「祈武運長久」と大書し、「遂ゲヨ聖戦」、「近東洋平和」などと記され、1938(昭和 13)年に日本政府が打ち出した日中戦争の目的を日本・満洲・中国の連帯による「東亜新秩序」建設だとする考えの影響がみられ、人々の間に浸透していたことがわかります。

資料 3 は、出征のときに作られた千人力です。ここには、多数の「力」の文字や伊太祁曽神社（和歌山市伊太祁曽）の朱印があります。出征する人の武運長久を祈って、一枚の布に多くの男性が「力」の文字を書き込みました。

千人力を書き込む人々
（出典：「和歌山県営繕技師増田八郎資料」）

---

[1] 榎家(海南市孟子)は、江戸時代の紀州の特産物である厚手の綿織物を松葉や針で起毛した紋羽織の生産に携わった家で、明治時代以降は、繭糸業を家業の中心としていました。

3　活用のポイント

- **中学校社会〔歴史的分野〕の場合…C 近現代の日本と世界**

　戦時下の人々の生活を取り扱うときに、身近な地域の事例として活用し、戦時下の社会の風潮を学び、平和な生活を築くことの大切さに気づくことができます。

- **歴史総合の場合…C 国際秩序の変化や大衆化と私たち**

　日中戦争以降の戦時下の人々の生活を取り扱うときに、「なぜ当時の人々は、戦場へと向かう出征を盛大に祝ったのだろうか。」と問いかけることで、政府が戦争を支援する世論を形成し、国民全体が戦争に協力する総力戦体制の構築が目指されたことが考察できます。

　資料 2 は、解説で取り上げた他に「コレデモカコレデモカ蔣介石ノ馬鹿メ」、「（鬼の似顔絵）をやっつけろ」、「チャイナのクーニャン（中国語で若い未婚の女性）いかが」などの差別的な記述や「中華民国酒うまいあるか」などの従軍を楽観的に捉えている記述などがあります。これに加えて、日中戦争における中国の一般住民を含む被害を知ることで、日本の世論と戦争の実態のギャップや、日本軍が中国で行った加害の側面を多様な視点で学ぶことができます。

　このように戦争の歴史を多面的・多角的に学ぶことを通して、グローバル化が進む国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に求められる公民として必要な資質・能力を育成することができます。

- **日本史探究の場合…D 近現代の地域・日本と世界**

　主題を設定し、諸資料を活用して探究する学習のときに、現代の戦争の影響を受けて生きている人々への関心にもとづき、戦時下の人々の生活を学び、社会や集団と個人の関係について考える活動を行うことができます。例えば、「戦争は、社会や集団と個人の関係をどのように変えるのだろうか。」「これから私たちは、戦争のない世界を実現するために社会に対してどのような行動を起こすことができるだろうか。」との問いを表現して、探究することができます。

4　出典

・【資料 1】当館所蔵　榎家文書〔出征幟〕
・【資料 2】当館所蔵　榎家文書〔寄せ書き〕
・【資料 3】当館所蔵　榎家文書〔千人力〕

5　関連資料・ウェブサイト等

・和歌山県歴史資料アーカイブ「和歌山県営繕技師増田八郎資料」（和歌山県立文書館）
　…現和歌山県庁舎の設計・監督者を務めた増田八郎に関する写真等の資料。
　　スクラップ帳 2 の整理番号 40~49 が小泉龍造という人物の出征に関する写真。
・「国家総動員法・御署名原本・昭和十三年・法律第五五号」（国立公文書館デジタルアーカイブ）
・昭和館デジタルアーカイブ…戦中・戦後の国民生活に関わる歴史的資料・情報を公開している。

6　参考文献

・和歌山県史編さん委員会編『和歌山県史　近現代 2』和歌山県、1993 年
・和歌山市立博物館編『和歌山大空襲の時代』和歌山市教育委員会、1995 年